諸會員姓名志

法篇

拾之

へ遠1.3
2475
33

へ函13
2475
33

茶磯榮

目録

一 [illegible]の事

一 [illegible]の事

一 [illegible]の事

五条の宿あまたあれ
東くし伊予屋にて
就中名の高きに
つる評屋

帳記　藤屋見事志武編書之振ニ
多紙屋織物鉋元服の事
一　築諸親類生捕らる事
藤波口宮町酒鍋ハ一千余の軍兵を引て
五月廿一日の夜搦に多勢の海ろへ上と
ころきこうまてをも船ゐを打ち取見えし
一　取場のかかりをまたところにたてま

ならし気明ひの多識をみちらくい
もうや山岳いとしつておゑつと行く拠
白の木戸像よ押し当稚児なし祭
かゝる元来本城を演ずるの帰をくふ
して隔をなし上の陣に逆き義来なり
しゆひるまでまて月ひの位とら
く縁史軍帰方付るき染めちろ
みなちゑて喜びを陽くさかしくえて

いきへつとゑをしにたつし四節く平等
鈴の音をみて東大傍るしてき時の変
と菊しくる塗婆い佛の御みうまして
合服りて隔ぎ所るとなる傍
の大軍押打しりひだちくらさいらき
き陽秋の御ひとしろひかんしま
えつさすみて永の陽所とかいる大
わるよ陰到しひまてさ詩るを

かくして大平しく幸氏と盛季也
や掛目の名乗入しおを誓言しけれとも
無入せし事ましても伝くしも其てまた
無体よ陽と無の統しし無二無三よ
無入ちらと激名伝ぎる討死すべく
いさ道へ月数立けるも攻のしまね
じうかりと家従の散ろ仁しかれ迄
とみるづき其中一城籠女ら討ぬし

とき勝と決さる女へ数月中多大勢入
けのる大きりと無敗と一月也やらし
大勢溜蔵今ともませでおのしきも空帰
して百陽分色の残名家従と死せ
院ぐさ矢斗をも自害せんと勝の出り
候へらづね所は西のちからうるし
いふしんうるで後へ親て勝つき
切腹しあちと帰をすて無念して

ともに死したりけれ
資盛(すけもり)が思ひし所は、伊文長範よ
よりしてもし二代の守護
まで最後大将の御所年の手
よりも拝みまし御後ありし
は長成井刀よりましゆへ吉野
のおんつ今資盛殿のおんで
細心しもしを御てありたまし

なりしん其後(そのゝち)はくろよりそだ
まいりてし御年(ねん)の今に至る迄せし
そのかいんてもなりても
討(かし)て大将自害(じがい)して強意をしく討
死し霊魂の地を立てられ
だ翁の嘉例しけるおまく
書の陣のく勝名と二刀よりしかみ
かみりしても北くらみ御とく見ゆさた

大まかに死にしるしとしるし候三百余
海を幸にして素とし御船なくなる
まま馬よりて乗り矢はたらく神
乗り程こそ乗り矢をつくるまよりて
なりたる物神仏幸のごとくなる
の中へ参るよ社どもの
外の矢をなるしるし死にしるし候
そしりて武家の海にしる武者二歳なる

らべて神船にしるまよりたる
船にしるみなし乗り矢陸地岩石
の〻多賀の中へなりて武人でしるべ
つしるしをなるひ知てまりる事
の矢土元武家なるものたちまよりて
なりて中をこのくに通りて
ひしるまよりたる
例の世義有りしるべ

鎮西に陣額ハ雑かし味くさを嫌ひ
伴子三百余人ならねをひろつき能登へ
討死しよ歌兵しすゞ禰息とひり
返らんとするところに源利長宗遠
母義宿と聞て陣額からんとしうぢ
いそんで勢の主へ還くへ出で
陣額法ゆみつけとりし家書毅
ようお揃頂戦もつき之郷中を

平州の住人新庄三郎義光の後胤
武田弥五郎清光が末孫源利長宗遠
相し丞合して修敵へしりて大将に
自からかしらハ陣額世よ名をもらひ
陣らんて降ひとらのすはしいでども
味方そらまて服陣を促なくも補殺
して退らんと弓矢よらひ西意に
おとしてん切てをかけ方をとえよりと

用ゐ申さるべき事と仰て爲の三篇り
多くなりと云ふ也〻此年ぶもすくなく成
ぬと仰せ一の知人を特極ぶ少ぐら
馬を乗て過きらるとゝ者とゝらぐ
まぐるまて過るを仰せられる
馬ゟ下て二の知人と仰ぶ所
仰みゝ少と仰てそなん者を
ゐなぶ少と仰られ遠ちぐ百姓

所藏の仰歌一三仰ぶ特極ぶ
れ合の者陽ゟ人者と云虎に
無先とのぐを仰歌今さそ日ゟる
弱ゟげて長が嘶ゟと汁ゟ
利是をみゝ方を甲ゟ元ぐ
ゐてゟと人ましとゟぶ事所
弱ひが利をいゟて生挿
らんと但ぐも弱と遠まゟ仰歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こりゆゑに怨敵をうつて佛天しかと落ち
さえても落城もしるやいなやして京方
諸の勢みそて責るとも一日の中には籠城
其れかふまじとつる本丸のあけるに
落城し一族郎どうへもしく討れ父
よしも我子にさきし寄るへみそそろ
ゐみぐるまもちびしが我なんへむすびい
かくせんじんして自害に腹切なんとし

せしとかろへ余ゆる帝に腹巻をさせ足
腰に脇刺をつけみなんでう名うしく猶
影婦をみのうし称なくも脇のふ
そのうちに我一族討死して我と自害
おんぞしおりくにて三ぬきへ頭
にのふにましとまに冥途の三ちづき
まかんとるのみそとうとそらひさら
ありくを若き子ろをお乳の侍あやかりしにげ

けん勢にひかれ誰を生捕らまし討
ちとる是非綸言の仰にて退るべし公
に都落ちして跡ひらきし楯のちくよりも
恥に曝され見物してゆるしがたき天狗
がくれなる廊下をとうられ去年の与市
と争論しけるにさいしよ源相
せしめなりける誰は命をすてて誰か
跡をにかわるか世話有るなりとて

之ども跡ひつつき後に一族の討死
面縁の論もすまじとおもふし汝は陰
利かられる計をんと計らがくし
与市どのの郷ざるんても武道更
いみぐるしと偏執とせんしまずると
恥に気のちはぢらひ我がひとる身して
切てもるのに名より無相の恥の所ん
みて百中百発のねのうちかけば矢

の中にありし年頃違ひし縁覚が膝を
剃通してみし房この縁覚と何ゆゑの
てらみらつき道まし身も落ちりしたまよ
弟ちかきまいらせ御師の中の事を
ならざり馬より飛おりし味方のみか
まくりかたじけなさにあてやへらける
行まかとしもさ庭のとまりさ奉ぬ
抱きしめつつ生捕し縁覚無生捕く

まし〳〵職なとして終にしりぬる
営居の道論まとりし其端を
おりらひ懐中に入味あるとてんらん
まるよ名様やらる其外武をおく
胸ありとみて大道衛ともらひ
足みるよ跳ごして胸さし比死の
名三年余人軍器の核を集めし陳ら
殊いろでるに中よし落胸まへつきしや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆゑ浄飯王の御子として[illegible]
にかゝりまし[illegible]のもろ〳〵を[illegible]
親のゆるしを得ずして羅睺羅[illegible]
夜半[illegible]の[illegible]
女房達をもすてゝ[illegible]
は耶輸陀羅[illegible]
のりし御年十九[illegible]
とぞつたへ[illegible]

かくて[illegible]苦行の[illegible]
[illegible]
[illegible]
し[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
と[illegible]

市場と唱へ[illegible]市場よりいで
り[illegible]拾銭を[illegible]拾銭を[illegible]
[illegible]ども加銭の[illegible]
のぞみ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]
る[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

るが世へ出現ありしといへども比丘は
らのんで修羅をあやつらんとのまし
あらそひきゝ佛前に妙西外菩薩開公
めい僧ひや奴と読ゝ出つゝ経などあまたり
唐奴のうちとりまはれて稲
の達ひありし是外皆家のまゝりをし
寄よし諸家の居物かゝらざしてえ
古地のよしゝき見物とせんといふ

又のもと童うん信らがごく諸の脳中
よりし生む子のく天気の使者り
まづしとこえし詩句なる書ら
ありまやく修まりのゆ々根前え
生得名情うくさがせく法村か中条
珠敷に勝て鼻母をおもしのあを
しきりのしのひめたるす
まらもんとるいの耳具の御り

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やうなる所にまうでゝ
べしとて
うて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]